

タッチ・ザ・ワールド事業の評価・検証について（追加報告）

このことについて、令和3年3月1日の本委員会で報告をしたが、利用実績、事業経費、事業の総括をまとめたので、別添にて改めて報告する。

なお、タッチ・ザ・ワールド事業で使用していた教育センター内のスペースについては、中央図書館の機能拡充への活用に向けて、令和3年度はコロナ禍における対策として、中央図書館の閲覧室・学習室の利用可能人数を減らしていることから、閲覧・学習スペースの確保のため、机や椅子等を用意して、タッチ・ザ・ワールドのスペースを暫定的に活用する。令和4年度以降は、魅力ある図書館づくりとしての活用を、令和3年秋を目途に整理する。

## タッチ・ザ・ワールド事業の評価・検証について（追加報告）

### 1 事業概要

#### (1) 事業目的

平成30年度からの小学校における外国語（英語）の教科化や、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、多様なコミュニケーション場면을体験することで、子どもたちや区民が楽しみながら英語を学び、多様な文化にふれることを目的とした。

#### (2) 事業実施期間

平成30年10月～令和3年3月末

#### (3) 設置場所

世田谷区弦巻3-16-8 世田谷区教育センター（2階）

#### (4) 事業形態

① 一般利用	常設の機材を用いた展示、チャットタイム等英語を用いた外国人指導員（以下ALTという）との多文化体験を行う。
② 英語体験イベント	小学校の対象学年向けに、英語でのコミュニケーションを基本としたアクティビティ、海外生活の疑似体験等を行う。
③ 小学4年生の移動教室	各区立小学校4年生が、教育センターへバスで移動し、プラネタリウム観覧と合わせて、本施設にて英語体験を行う。 読み聞かせ、英語かるた等の英語を用いた各種アクティビティを行う。

### 2 利用実績

#### (1) 利用数

##### ①一般利用・イベント

平成30年度 (開場日毎の平均)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平日	15	13	8	16	16	16	14
土日祝・長期休業	37	40	27	42	45	56	41
イベント	84	89	107	65	207	172	121

令和元年度 (開場日毎の平均)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平日	23	17	24	36	43	38	35	30	30	25	20	29	
土日祝・長期休業	52	51	109	88	80	103	97	82	66	75	73	31	76
イベント	227	175	167	64	98	180	162	118	76	102	158	139	

令和2年度 (開場日毎の平均)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平日			15	21		29	27	20	22	22	28	23	23
土日祝・長期休業	8		40	53	65	74	52	61	56	52	67	52	53
イベント			137	116	67	140	148	89	75	61	59	49	94

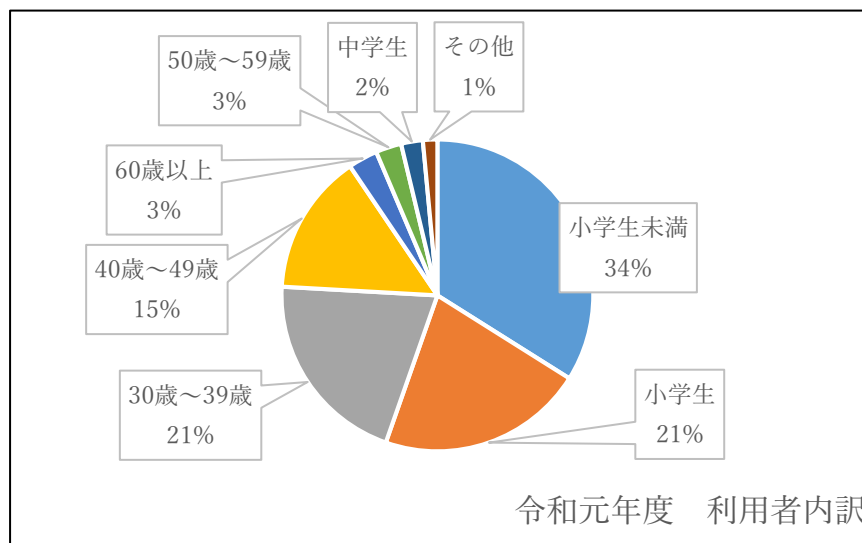
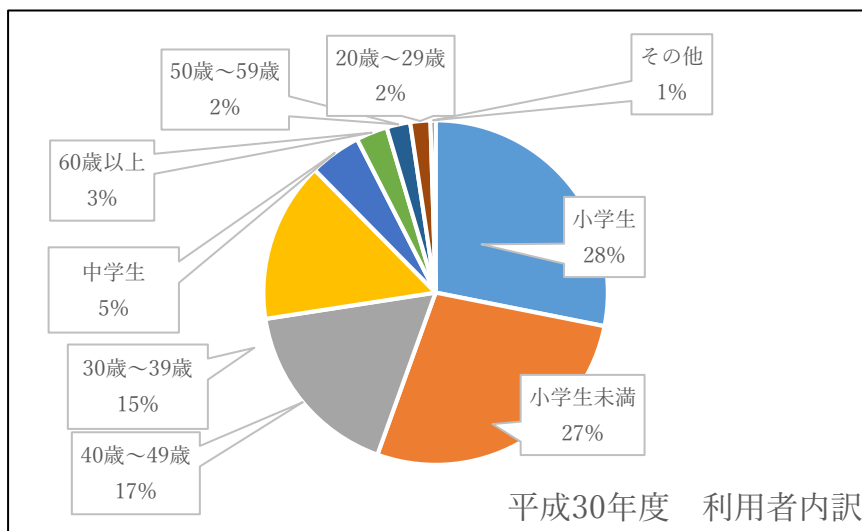
※8月の平日は長期休業に含まれる。令和2年度は4月8日～5月31日は休館

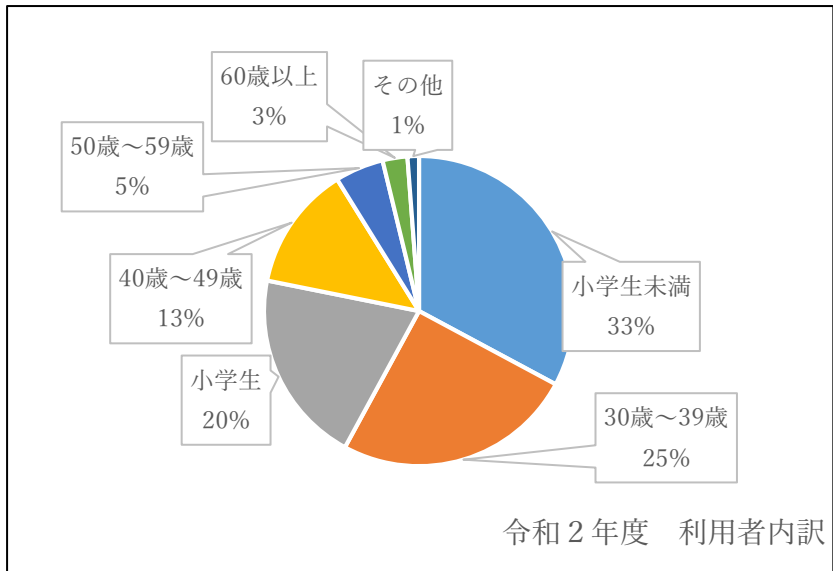
## ②移動教室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	0	0	0	0	0	287	2070	2009	0	776	1097	0	6239
令和元年度	0	471	0	0	0	858	1633	1507	33	1356	409	31	6298
令和2年度						432	1593	995	498	651	1090	921	6180

※令和2年度は学校への出張型の実績（4月～1月）

## (2) 利用者内訳（一般利用・イベント 小学生移動教室は含まず）

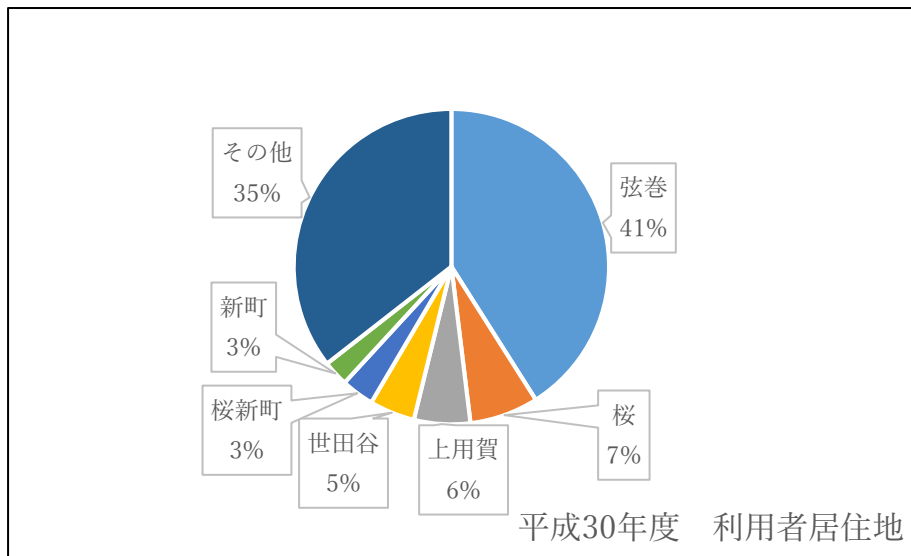


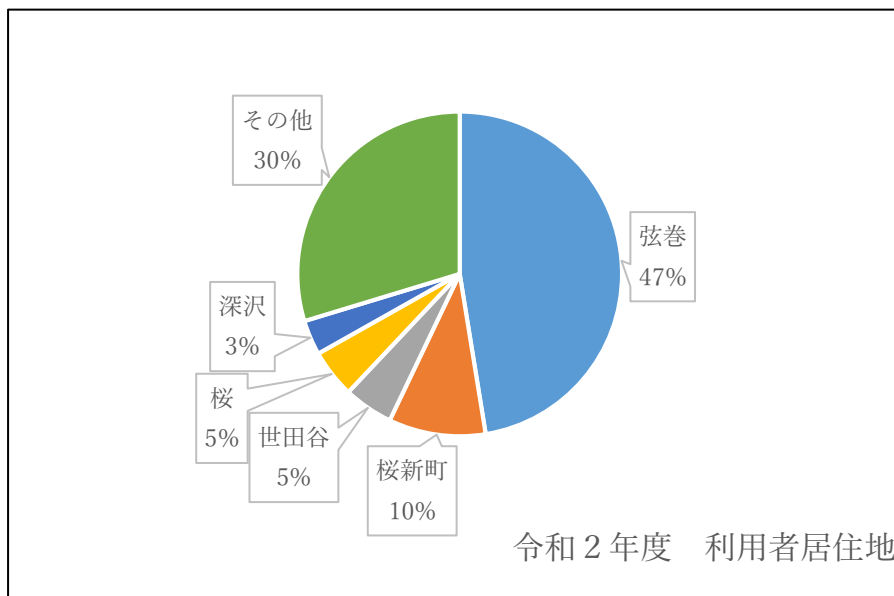
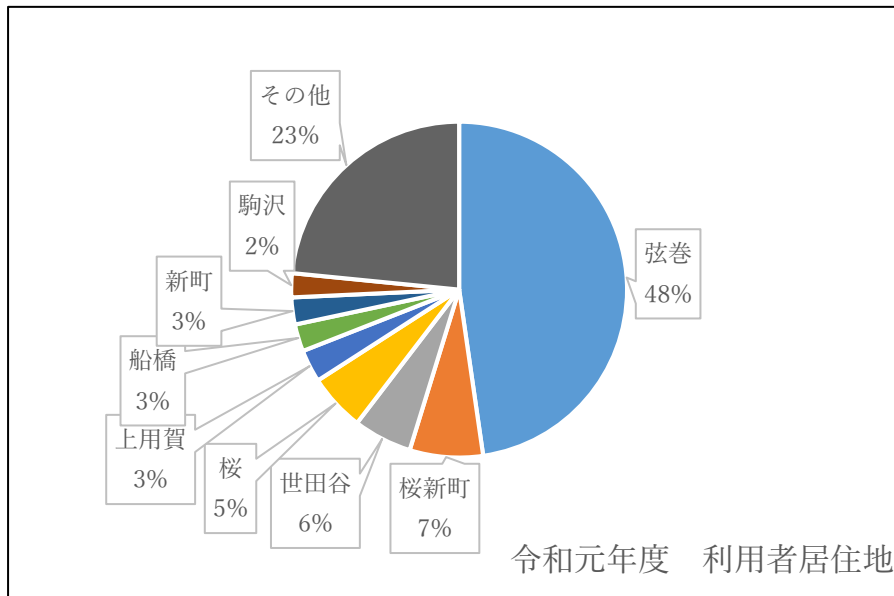


【分析】

- ・利用者の半数以上が、小学生、小学生未満の未就学児となっている。
- ・40歳代、30歳代が各年度の利用者の3割以上を占めているが、小学生以下の児童とその保護者と思われ、あわせて全体の8割を占めている。
- ・小学生の利用率が減少している一方で、未就学児の利用率が増加している。
- ・未就学児の利用の増加に伴い、その保護者と思われる30歳代の割合が増加し、40歳代の割合が減少しているものと思われる。
- ・未就学児とその保護者の利用率の傾向から、保護者同伴による未就学児の広場的機能としての利用が高まったことがうかがえる。

(3) 利用者居住地（一般利用・イベント）





【分析】

- ・所在地の弦巻及び、隣接する居住地からの利用が多数を占めており、徒歩圏の居住者の利用が多い。
- ・3年間の実施期間を通して、地区の児童利用施設としての役割が鮮明になる一方で、全区をカバーする教育学習施設としての機能を果たすには至らなかった。

(4) 利用者の感想

①一般利用の利用者の感想

(平成31年4月～令和元年11月まで 122件の中より抜粋)

- ・子どもの興味をひいてくれるおもちゃや本が充実している。スタッフの方が親切。
- ・実際に楽しく英語を聞くことができた。
- ・英語に気軽に触れられる環境でコンテンツも質が高く、偶然おとずれたのですが、とても楽しかったです。

- ・設備の広さのわりにはスタッフが少ない。子ども達を見ている、友達同士、日本語でただ遊んでいるだけ。
- ・ALTと話す時間が少なかった。1対1でなく1対複数で良いので、もっと接する時間を長くして欲しい。

②移動教室の感想（令和元年度の教員からの感想から抜粋）

- ・子どもたちが積極的にプログラムに取り組んでいた。授業であまりしゃべらない子どもが、ALTの巧みな話しかけで活発に参加する姿が見られた。
- ・子どもたちの興味をひくようなプログラムが多く、それぞれがよく考えられていると思う。
- ・プロジェクトマップはジオラマを活用することで、世田谷の地形から自分の学校が浮かび上がる工夫がなされている。これには子供たちが興味をもって見ている。一方で子供たちが英語に触れ合う時間が少なかった。
- ・1つのプログラムに参加する児童が8～10人なので、英語に触れる機会が少なく、見ているだけで終わる児童がいた。
- ・読み聞かせは学校でもできること。もっと子どもたちが能動的に活動できるプログラムが必要である。

3 事業経費

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	(単位：千円) 合計
<b>初期費用（改装、映像機器設置、備品、消耗品の購入等）</b>		<b>49,444</b>			<b>49,444</b>
内 訳	改修・改装工事費	28,935			28,935
	映像機器設置費	19,969			19,969
	消耗品費	222			222
	備品購入費	318			318
<b>運営経費</b>		<b>15,152</b>	<b>24,941</b>	<b>26,133</b>	<b>66,226</b>
<b>施設運営費（ALTの配置、運営委託）</b>		<b>13,872</b>	<b>21,945</b>	<b>24,262</b>	<b>60,079</b>
内 訳	英語体験移動教室	7,409	7,206	9,105	23,719
	英語・多文化体験イベント	2,214	2,749	3,269	8,233
	その他会場日（平日）	2,116	4,041	5,334	11,491
	その他会場日（土休日等）	2,132	7,949	6,554	16,636
設備維持費（映像機器 平成30年度は初期経費に含む）		0	2,244	330	2,574
設備維持費（通信機器）		133	167	173	474
消耗品費		1,147	584	575	2,307
ジオラマ撤去費				792	792
合計		<b>64,596</b>	<b>24,941</b>	<b>26,133</b>	<b>115,670</b>

※平成30年度は施設運営費が10月以降から発生。

4 来館者1人にかかる施設運営経費

(単位：円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	平均
一般利用	平日	1,431	730	1,445	1,074
	土休日等	902	779	994	868
イベント		2,262	1,302	3,364	2,027
移動教室		1,188	1,150	1,473	1,269

5 事業の総括

(1) 一般利用

① 分析

一般利用の利用者数が十分でなく、広く利用されなかった原因は次のことが考えられる。

- ・英語を体験することを望んでいた利用者にとってALTの人数、プログラム等が十分ではなかった。
- ・リピーターとして何度も訪問してもらうためには、設備・事業内容の定期的な更新が効果的であるが、プログラム等が十分ではなく大幅な更新を行うことができなかった。
- ・事業の周知が学校を通じた児童への周知が中心であり、広く区民を対象とした周知が十分でなかった。
- ・区民が気軽に訪れるためには交通の便も重要な要素の1つであるが、駅からの距離も近いとは言えず、駐車場も整備されていなかった。

② 評価

一般利用の利用者数は、事業開始当初に比較すると令和元年度は増加したが、施設規模や子どもたちや区民が楽しみながら英語を学ぶという事業目的からは、十分な利用があったとは言えない。また、利用者のほとんどが近隣在住者で、未就学児とその保護者が利用者の大半を占めており、英語体験や多文化体験としての利用がなされていない場面があったと考える。

一般利用について、ホームページに掲載し、学校を通じて周知したが十分ではなく、また、リピーターを確保する内容が提供できなかった。

(2) 英語体験イベント

① 分析

毎回のテーマを変えて実施したことによりリピートでの利用などにつながったものとする。また、学校を通じて開催のチラシ等を配付したり、ホームページに載せたりすることが効果的であったと考えられる。

② 評価

イベントについては、一定数の利用が得られた。

(3) 移動教室

#### ① 分析

多文化体験を目的としたプログラムであるため、かるた・けん玉体験など日本語で子どもたちが会話をしがちになり、英語体験という目的が十分に達成できなかった。ALT一人に対する児童の人数が10人を超えることがあり、英語を会話するという点では十分な時間を確保できなかった。

#### ② 評価

子どもたちはプログラムを通して、外国人指導員と一緒に体験的に学ぶ時間を過ごすことができたと考える。プログラム内容については、英語を話す体験に十分な時間を確保できず、外国人指導員の配置を効果的に活用できなかった。

### (4) 事業経費

#### ① 分析

- ・初期費用は、開設時の施設改修工事や映像の設備設置費など4,944万円となっており、内訳としては、施設改修工事に2,894万円、映像機器設置・調整および映像コンテンツ作成業務1,997万円であり、経費の99%を占める。
- ・運営経費の大半が、施設運営費（ALTの配置、運営委託）が占め、各年度9割近くを占める。
- ・施設運営費は令和2年度の2,194万円から翌年度2,426万円と増加しているが、ALT配置の経費と税率が上がったことによるものである。
- ・施設運営費の事業別に占める割合は、一般利用（平日）19%、一般利用（土休日）28%、英語体験イベント14%、移動教室39%である。
- ・一方、施設運営費の事業別一人当たり単価（経費／来館者数）をみると、一般利用（平日）1,070円、一般利用（土休日）783円、英語体験イベント2,030円、移動教室1,270円である。
- ・設備維持費（映像機器関連）が、令和元年度224万円であるのは、プロジェクションマッピングと入口付近のタッチ式映像コンテンツの更新によるものである。

#### ② 評価

- ・入口付近にあったタッチ式の映像コンテンツは、来館者の施設利用の期待感を高めることに一定の効果があつたが、内容の広がりがなく、リピーターの期待に沿えるものではなかった。常設公開を基本とするならばコンテンツの更新を当初から織り込んだうえでの事業プランとすべきであった。
- ・一方で、コンテンツの更新経費と平日の想定利用者数から、従前の郷土学習室の開館日なども考慮し、タッチ・ザ・ワールドの開設日・時間の見直しという視点も必要ではなかったか。
- ・プロジェクションマッピングについては、小学校の移動教室で初めて来館した子どもたちには、冒頭に興味関心を高めるために一定の効果があつたものとする。
- ・イベントは来館者一人にかかる施設運営経費単価が高い一方で、開場日毎の来館者数は一般利用に比べて多く、単価の見直しも含めて、タッチ・ザ・ワールドから得られた事業効果に着目し、事業継続の検討も必要であるとする。
- ・デジタルコンテンツを活用した体験型施設が民間でも増えているなかで、教育学習施設



と融合したタッチ・ザ・ワールドのコンセプトそのものは意義あるものであった。一方で運営の多くを委託事業者にゆだねた結果、事業更新や発展性に欠けたものとなり、物珍しさが薄れた段階で来館者の固定化を生じさせる結果となった。教育学習施設であるには、教育委員会として積極的にコンテンツに関わっていく姿勢が必要であった。このことを踏まえ今後行う事業については、利用者の感想等を分析し、定期的にコンテンツの内容を見直していく。

## 6 今後の方向性

<p>小学4年生 の移動教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度については、感染症の影響を考慮して中止する。プラネタリウムについては、チケットを配付する。</li> <li>・令和4年度以降については、新たなプログラムを検討していく。</li> </ul>
<p>英語体験 事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は令和2年度と同様に、小学4年生の児童に対して、各学校にALTが訪問し、体育館等にて英語体験事業を行う。 (6人程度のグループごとに1人の外国人指導員を配置し、児童がより多く英語を話せるようなプログラムにする。)</li> <li>・令和4年度以降については、今回の評価検証を踏まえ、生きた英語にふれることのできる英語体験イベント等の実施を、今後検討していく。</li> </ul>